

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立 橘小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

○児童会を中心に、「生活ふり返しカード」や「あいさつ運動」に年間を通して計画的に取り組んできた。

○「いじめ（いのち）について考える日」に児童集会を実施して、校内での啓発活動に取り組んだ。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○玄関前に自主学習の成果を掲示し、より多くの児童の目に触れる環境を整えた。

○デジタルドリルを学習の中で活用し、児童にも定着してきている。

○1人1授業の中にリーディングスキルを位置づけ、スキルの育成を意識しながら授業づくりを行うことができた。

○「かけ足週間」「縄跳び週間」「健康週間」「給食週間」をそれぞれ実施することで、児童が健康な生活を送り、望ましい生活習慣を身に付けようとする意識を高めることができた。

【学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末は、どの学級も活用できているが、「ほぼ毎日」という頻度にはなっていない。

○スクールサポートスタッフの有効活用により、職員の負担を軽減することができた。

○図書委員会で読書チケットやおすすめ本のプレゼントを実施したり、図書室の本を移動式ラックで各学年の身近に置いたりすることで、児童の読書意欲を高めることができた。

○保護者や地域の方と連携した学習活動を各学年で行い、その成果を学習参観などで発表することができた。

○例年行っている小中連携に加え、今年度は幼小連携の一環として、地域の幼稚園や保育園の園児を本校に招待して、体験的な活動をすることができた。

○児童会を中心に「たちばなまつり」を行い、保護者との連携を深めることができた。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

○令和7年度小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

○令和7年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を33%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに、毎年1ポイント向上させる。
- 令和7年度末校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童を93%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、令和7年度末において、年間授業日の50%以上にする。（「学習者用端末 月間活用率表」より）
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末において50%以上にする。
- 令和7年度末保護者アンケートの「学校は保護者や地域の願いを受け止めて教育活動を進めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を43%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より1ポイント向上させる。
- 校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童を93%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日50%以上にする。（「学習者用端末 月間活用率表」より）
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を50%以上にする。
- 令和7年度の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の願いを受け止めて教育活動を進めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

「全市共通目標」である3つの最重要目標の達成に向けて、教職員がひとつになって取り組みを進めることができた。

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】においては、

・「いじめ（命）について考える集会」や、「生活がんばり週間」（年間3回）を通して、きまりを守り、いじめを許さない意識を高めることができた。さらに「生活がんばりカード」で振り返りを行い、明らかになった課題についての発表も行った。また、児童会を中心に各委員会でもあいさつやいじめに対する取り組みを行うことで、児童の意欲向上を図った。

今後、取り組みによって明らかになった課題に対する手立てを継続して行っていく。また、次年度も各委員会からのあいさつやいじめについての発信を継続していく。

○多文化共生教育においては、学年児童の実態に応じて、外部講師（ベトナム、韓国・朝鮮）を招いた授業（年間5回）を行った。また、「民族学級30周年を祝う会」を計画通り実施することができた。その結果、他者を理解し大切にしようとする気持ちははぐくまれている一方で、自分を肯定的にとらえられていない児童がいることがうかがえる。今後、学習活動や学級活動などの場面で、友だちとの関わりの中で、自他を認められる取り組みを継続する。日々の学習活動では振り返りを充実させ、発揮された個性やよさを互いに認め合える手立ての工夫を図る。また、外部講師を招いた出前授業や、道徳・学級活動等を活用して、話の聞き方や話を聞く姿勢を学ぶことができる機会を増やす。

「民族学級30周年」で培われた伝統やつながりを大切にしながら活動を継続する。児童の実態に応じて、ゲストティーチャーを招きながら多文化共生教育をさらに推進する。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】においては、

・授業において話し合う時間を確保することはできたが、話し合いを深めたり、広げたりするところまでには至らなかった。また、授業者主体の授業が多かったため、児童たちが話し合いを通して「何が分かり、どのような良さがあるか」について十分に共有できなかったと考えられる。今後は、単元のゴールを設定し、どこで話し合うと深められるのかについて確認していく。また、毎回の授業終わりには必ず振り返りを書かせて、次の授業に活かしていく。

・体育科の授業や体育的行事、「駆け足週間」、「縄跳び週間」など体を動かす機会を設けることにより、様々な運動に取り組むことができた。また、校内体育実技研修で行った活動や運動を授業に取り入れ実践したことにより、児童の技能の向上が見られた。

「縄跳び集会」や「駆け足週間」を計画どおり実施し、児童の体力を大きく向上することができた。今後は、年間計画の見直しを図り、各単元で基礎感覚づくり・体力づくりにつながる運動時間を確保していく。

・年間を通して身体についての指導や病気怪我予防の指導、給食指導、栄養指導を充実しに努めた。また、児童が好き嫌いなく食べることができるように、目標をもたせたり、個別に励ます声かけを行ったりしながら、給食指導を進めた。また、給食に関する放送やクイズを行ったり、「給食週間」の取り組みを実施したり、栄養指導を充実したりしながら、児童の「食」への興味・関心の向上を図った。今後は、食事以外の生活習慣に関する指導も併せて進める。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】においては、

○日々の学級指導をはじめ、児童朝会における表彰などにより、「心の天気」の入力率は向上した。併せて、学習者用端末の活用率も10月より大きく向上した。学習者用端末を用いた個人学習や持ち帰りについては進んでいるが、デジタル教材の活用は学年によるちがいが見られた。今後は「心の天気」を日々の児童の様子をつかむツールとしてさらなる活用を図る。

○会議の精選・焦点化や研修の計画的な実施、学年打合せを基本的に週1回実施したことにより、教職員間の情報共有が進み、業務の効率化の向上につながった。また、長期休業期間中の学校閉庁日を夏季4日、冬季3日設定することができた。しかし、「ゆとりの日」については設定したが、退勤時刻を17時とするまでには至らなかった。今後は、月1回以上「ゆとりの日」の設定を継続し、17時退勤の習慣化を図る。また、会議や業務内容の精選、SSSの活用を継続し、教員の負担軽減を図るとともに、教員が児童と向き合う時間を確保できる校内体制づくりをさらに進めていく。

・メンター研修や校内研修を通して、教員一人一人の強みが組織全体の力として生かされる、しなやかな組織づくりを推進していく。

・ミマモルメやホームページを活用した情報発信により、教育内容や学校行事について家庭に伝える機会を増やすことができた。今後も、このような情報発信を継続し、教育活動をはじめ、取り組みのねらいも分かりやすく伝わる工夫を図る。また、家庭や地域等と連携・協働した取り組みを計画的に実施することができた。一方で、総合的な学習の時間において、総合的読解力の育成と地域学習との関連が不明確という課題が明らかになった。今後は、総合的な学習の時間については、年間計画を整理し、地域学習と育成したい資質・能力との関連を明確した上で、学習を進めていく。

次年度は、年間授業時数を見直すことで、さらなる教職員の働き方改革をめざし、教員の超過勤務時間の減少に努め、急速に進む若手教員増加に伴う人材の育成にも力を注げるように運営に関する計画を策定し、実現をめざしていきたい。

(様式例2)

大阪市立橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。(85%) ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。(91%) ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(81%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 ○みんなで楽しく学校生活を送るために、学校のきまりを理解し、守ることができるよう、計画的に取り組む。そして、ふり返る機会を設ける。 ○「生活ふりかえりカード」にて明らかになった問題に関する啓発や、児童による点検活動など主体的に行動できるように計画する。 ○いじめを許さない心を育てるために、児童会を中心にいじめ(いのち)について考える日等の集会活動に取り組む。	B
指標 ○各学級に「学校のきまり」を掲示し、学期ごとに振り返りや確認を行う。 ○「生活ふりかえりカード」の取り組みを年間3回行う。 ○いじめに関する代表委員会を中心とした集会活動に年1回以上取り組む。 ○外部関係機関とも連携しながら、外部講師による授業や学習の機会を学校全体として、年間3回以上設ける。	
取組内容②【2 豊かな心の育成】 ○すべての教育活動を通じて、「自分も人も大切にする」ことを意識し、子どもの自尊感情を高め、認め合える関係を築く。	C
指標 ○校内の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的な回答の割合を86%以上にする。(81%) ○校内の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的な回答の割合を96%以上にする。(「自分」:91%/「人」:99%) ○多文化共生教育を推進するために、外部講師による授業(年間5回以上)や校内発表会(1回以上)を実施する。(民族学級30周年校内発表会を含む)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- 「いじめ（命）について考える集会」や、年3回の「生活がんばり週間」を通して、きまわりを守り、いじめを許さない意識を高めることができた。
- 「生活がんばりカード」で振り返りを行うとともに、浮かび上がった課題についての発表を行った。また、児童会を中心として、各委員会でもあいさつやいじめに対する取り組みを行うことで、児童の意欲喚起に努めた。その結果、「自分からすすんで挨拶をすることができる。」の肯定的な回答は88%に、「いろいろなきまわりを守るようにしている」の肯定的な回答は90%になった。

取組内容②

- 校内アンケート「自分には良いところがあると思う」の項目で、肯定的な回答が81%となり、目標の86%は達成できなかった。「自分も人も大切にしている」の項目では、自分に対しては91%、友だちに対しては99%の児童が肯定的な回答をしており、自分を認めることに引き続き課題が見られた。他者を大切にしようとする気持ちははぐくまれている一方で、自分を肯定的にとらえられていない児童が一定数いることがうかがえた。
- 多文化共生教育においては、学年児童の実態に応じて、年間計5回外部講師（ベトナム、韓国・朝鮮）を招いた授業を行った。また、「民族学級30周年を祝う会」を計画通り実施することができた。

次年度への改善点

取組内容①

- 「生活がんばり週間」の取り組み期間だけでなく、取り組みによって明らかになった課題に対する手立てを継続して行っていく必要がある。特に、廊下・階段の歩行のルール遵守を徹底するような取り組みが必要である。
- 次年度も各委員会からのあいさつやいじめについての発信を継続していく。

取組内容②

- 学習活動や学級活動など様々な場面で、友だちと関わりを持ち、自他を認められる取り組みを継続する。日々の学習活動では振り返りを充実させ、発揮された個性やよさをお互いに見つけ合い、認め合える工夫を図る。また、友だちの言葉や意見を傾聴できるように、外部講師を招いた出前授業や、道徳・学級活動等を活用して、話の聞き方や聞く姿勢を学ぶことができる機会を増やす。
- 「民族学級30周年」で培われた伝統やつながりを大切に、活動を継続する。児童の実態に応じて、ゲストティーチャーを招きながら多文化共生教育をさらに推進する。

(様式例 2)

大阪市立橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 43%以上にする。(38%)</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。(R7: 男子: 55.5/女子: 53.8) (R6: 男子: 52.8/女子: 51.95)</p> <p>○校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童を 93%以上にする。(89%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○毎日の授業や教育活動で、一人一人が自分の考えを発表したり、他の人の考えを聞いたりして、意見を交流する機会を設定する。さらに、自分の考えを深め、広げることができるように指導・支援を行う。(ペア学習、グループ学習など)</p> <p>○児童一人一人の学力や実態に応じたデジタルドリル(navima 等)の活用を習慣づけ、基礎・基本の定着を図る。個別学習の充実を図る。※通級指導</p>	B
<p>指標</p> <p>○校内アンケートにおいて「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の児童の最も肯定的な回答の割合を 45%以上にする。(38%)</p> <p>○家庭学習も含め、児童がデジタルドリルを週 2 回以上取り組めるようにする。</p> <p>○校内アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の児童の最も肯定的な回答の割合を 60%以上にする。(58%)</p>	
<p>取組内容② 【5 健やかな体の育成】</p> <p>○体育の授業や体育的行事や取組等で、児童の体力の向上を図る。特に跳ぶ力(瞬発力)を高める。(立幅跳び)</p>	B
<p>指標</p> <p>○令和 7 年度の校内の運動能力調査において、1 年～6 年の立幅跳びの記録を年間で 3 cm 伸ばす。(R7: 立ち幅跳び: 男子 160.61 cm→176.61/女子 152.71 cm→171.74cm)</p>	

<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】 ○バランスの良い食事を心がけて、好き嫌いをなく食べようとする意識を高めるように各学級での給食指導や栄養指導を充実する。</p>	B
<p>指標 ○「健康生活がんばりカード」において「(給食を)自分で決めた量を残さず食べている」の児童の肯定的な回答の割合を90%以上にする。 (④81%③9.8%②3.7%①2.5%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容① ○校内アンケートにおいて「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の児童の最も肯定的な回答の割合を45%以上にするの結果は38%と7%満たすことができなかった。 授業で話し合う時間を確保できているが、深めたり、広げたりするところまでには至らなかったと考えられる。また、授業者主導で行われる授業が多かったことで、児童たちが話し合うことで何が分かり、どのような良さがあるのかを十分に共有されなかったことも原因の一つと考えられる。 ○学習者用端末の持ち帰りを3学期から全学年で取り組んでいる。 ○校内アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の児童の最も肯定的な回答の割合を60%以上にする。結果は58%と目標より2%満たすことができなかった。</p> <p>取組内容② ○「縄跳び集会」や「駆け足週間」を計画通り実施し、児童の運動量を確保することができたため、児童の体力を向上することができた。その結果、指標を大きく上回り、達成することができた。気温が下がってから運動場で体を動かす児童が増えたことは、色々な取り組みを進めてきた成果の一つと言える。</p> <p>取組内容③ ○年間を通して養護教諭による身体についての指導や病気怪我予防の指導、栄養教諭による細やかな給食指導、栄養指導を充実させることができた。さらに今年度から栄養教諭が配置されたことにより、食に関する取り組みを多く実施できた。その結果、6月に実施した「けんこう生活頑張りカード」の結果よりも肯定的な回答がわずかに上回る結果になった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容① ○単元のゴールを設定し、どこで話し合うと深められるのかについて学年打ち合わせで確認していく。また、毎回の授業終わりには必ず振り返りを書かせて、次の授業に活かしていく。</p> <p>取組内容② ○各単元で基礎感覚づくり・充実した運動時間を確保していく。 ○夏季の高温に対応したカリキュラム、体力づくりの計画を行い、子どもが運動する機会を確保する。 ○次年度に伸ばす技能は、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を元に種目を精査し、</p>	

選ぶ。

○全学年が授業の導入で取り組める（ストレッチ・準備運動）を検討していく。

取組内容③

○給食指導や栄養指導を中心とした取り組みだけでなく、食事以外の生活習慣に関する指導（睡眠、メディア（SNS・ゲーム等）の利用、視力や生活リズム）にも充実する。

○給食時の服装、マスク着用の指導を継続する。

○「自分で決めた量を食べきる」ことへの意識づけを図る指導を継続する。

大阪市立橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日 50% 以上にする。(「学習者用端末 月間活用率表」より)</p> <p style="text-align: right;">(4~7 月:4.8%→9~11 月:77.9%)</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2を満たす教職員の割合を 50%以上にする。(11 月:96.7%)</p> <p>○令和 7 年度の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の願いを受け止めて教育活動を進めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(90%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールライフ機能を活用し、児童が毎日「心の天気」を入力したり、教職員がミマモルメの「欠席連絡」を日々確認したりすることで、毎日の児童の体調や気持ちについて共通理解し、早期に対応できるようにする。 ・学習者用端末を活用した個人学習(デジタルドリルや家庭学習を含む)を週 1 回以上実施する。 ・各学年の児童の実態に応じて年間指導計画に位置づけ、プログラミング学習に年に 1 回以上取り組み、プログラミングに対する意欲を伸ばす。 ・本校の年間計画に沿って、ICT 機器を活用した学習を週 2 回以上実施する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度の校内調査で「学校活動の中で学習者用端末を使用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 75%以上にする。(71%) 	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポートスタッフを有効に活用できるよう業務依頼を計画的に行い、職員の負担を減らす。 ・「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた、キャリアステージに対応した研修を体系的・計画的に実施する。 ・教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができる環境の実現をめざす。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な取り組みや教職員の必要性に応じて全体研修、メンター研修を実施する。(年間全体研修 9 回、メンター研修 5 回) ・会議内容の精選や焦点化を図ったり、会議の終了時刻を明示したりすることで、各 	

<p>自が計画的に進めることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集団による学年打ち合わせを週に1回設け、機能化を図る。 ・「ゆとりの日」を月1回以上設定し、退勤時刻を17時にする。学校閉庁日については、夏季休業日期間中は4日以上、冬季休業日期間中は3日以上を継続する。 	
<p>取組内容③【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と連携した学習活動を各学年で1単元以上行う。 (1年:春(秋)さがし/2年:町たんけん/3年:福祉/4年:防災/5年:仕事(職業)/6年:歴史) ・保護者や地域と連携した児童会行事だけでなく、学校行事や各学年の取り組みにおいて年間で1回以上行う。「防災体験」「車いす体験」等) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページやミマモルメを活用することで、令和7年度の保護者アンケートの「学校は教育内容を家庭に発信する機会をよく設けている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、昨年度より1ポイント増加させる。(89%) ・学校協議会を年間3回実施し、学校の現状を伝え、地域の思いや意見を幅広く認知してもらい、理解や助言を得られる機会にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <p>○令和7年度の校内アンケートで「学校活動の中で学習者用端末を使用している」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を75%以上にするでは71%となり、4%満たなかった。</p> <p>「心の天気」の入力は4月当初に比べ、入力する児童が増加した。入力率が高いクラスを表彰したことでより入力する意識が高まった。しかし「学習者用端末を活用した個人学習を週1回以上実施する」の項目では端末の持ち帰りは行えているが、デジタルドリルの活用は各学年によって違いがある。</p> <p>取組内容②</p> <p>○会議の精選・焦点化や研修の計画的な実施、学年打合せを基本的に週1回実施したことにより、教職員間の情報共有が進み、業務の効率化の向上につながった。しかし、児童一人一人と向き合い、落ち着いて話をする時間が十分に確保できていないと感じる教員も見られ、児童理解に充てる時間の確保が新たな課題として明らかになった。</p> <p>また、5時間授業の増加やスクールサポートスタッフ(SSS)の活用により、教員が自分で活用できる時間が増え、時間外勤務時間の平均も31時間(R6)から25時間へと大幅に改善した。</p> <p>○メンター研修の充実により、若手教員から中堅教員までが互いの得意分野や学びを共有しようとする雰囲気が見られ、学び合う組織づくりが進んだ。</p> <p>○長期休業期間中には、学校閉庁日を夏季4日、冬季3日設定することができた。しかし、「ゆとりの日」については設定したが、業務の状況により退勤時刻を17時とするまでには至らなかった。</p>	

取組内容③

○ミマモルメやホームページを活用した情報発信を進めることで、教育内容や学校行事について家庭に伝える機会を増やすことができた。その結果、「教育内容を家庭に発信する機会をよく設けている」とするアンケートの肯定的な回答が前回より上回った。

○家庭や地域等と連携・協働した取り組みを年間で1回以上実施することができた。一方で、総合的な学習の時間において、従来の地域と連携した学習に加え、総合的読解力を高める取組などが増え、学年の負担が大きくなっている。また、総合的読解力の育成と地域学習との関連が分かりにくいという課題も明らかになった。

次年度への改善点

取組内容①

○「心の天気」は入力だけでなく、日々の児童の様子や変化をつかむツールとして教師が意識し活用していく。

○家庭にもデジタルドリルの有用性を定期的に伝える。また、今後、宿題のあり方を検討していく。

取組内容②

○会議や業務内容の精選、SSS の活用を継続し、教員が児童と向き合う時間を確保できる校内体制づくりを進めるとともに、教員の負担軽減を図る。

○メンター研修や校内研修を通して、教員一人一人の強みが組織全体の力として生かされる、しなやかな組織づくりを推進していく。

○月1回以上「ゆとりの日」の設定を継続し、17時退勤の習慣化を図る。

取組内容③

○ミマモルメや学校ホームページによる情報発信を継続し、校内における教育活動をはじめ、取り組みのねらいもより分かりやすく伝えていく。

○これまでの学習に加えて、地域の人材や特色を生かした体験活動を検討していく。また、総合的な学習の時間については、年間計画を整理し、地域学習と育成したい資質・能力との関連を明確にすることで、学習効果の向上と学年の負担軽減の両立を図る。